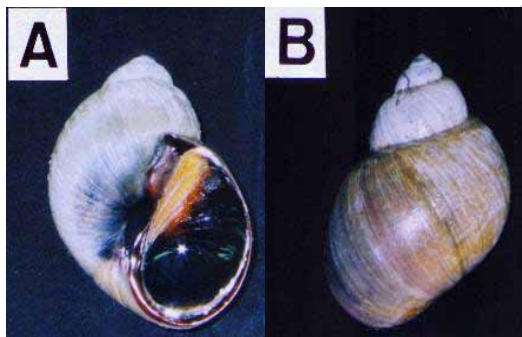


サキグロタマツメタ

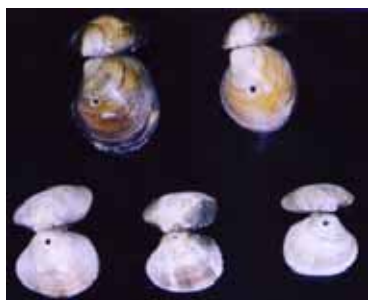
サキグロタマツメタはタマガイ科の貝食性巻き貝で大きさは最大で6cmでも程度。主に黄海に生息し、日本では有明海などごく一部に見られる。近年、国産アサリの漁獲量減少に伴い、中国や北朝鮮産のアサリを輸入して漁場に撒くようになったことから、これらに混入して日本に侵入した。



貝殻はタニシとよく似ている



軟体部を拡げて、這い回る



捕食された二枚貝類

アサリ等の貝類を捕食する時は軟体部を拡げて包み込み、歯舌(ヤスリ状の硬い歯)で貝殻に穴を開け、中身を吸い出す。だいたい2日でアサリ1個を捕食する。



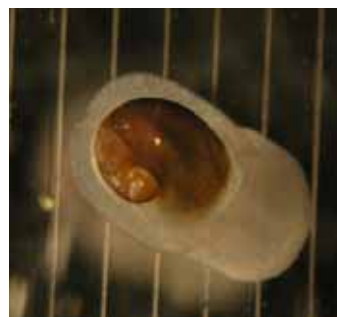
干潟を匍匐するサキグロ



干潟に産み付けられた卵囊

サキグロの卵囊は“砂茶碗”とも呼ばれるように砂を固めた茶碗のような形をしている。大きさは直径6~12cmで、これから数千個もの稚貝が孵出してくる。孵出直後の稚貝は僅か1.5mm位であるが、すぐに同サイズのアサリを捕食し始める。

産卵期は9月から10月にかけてで、この時期の卵囊回収も重要な駆除となる。



孵出直後の稚貝(1.5mm)

サキグロの効率的な駆除を行うためには、この貝の生態を熟知しなければならない。サキグロは普段、砂に潜って生活しているが、潮が引いて干潟が出始める頃に砂から這い出して砂上を匍匐する。従って、春は日中、秋から冬は夜間に潮がよく引くため、その時間帯に駆除を実施する必要がある。また、卵囊の回収は10月中旬頃より稚貝の孵出が始まるので、それまでに行ななければならない。

サキグロタマツメタの干潟上活動期(駆除適期)

